

目指す学校像	「真の学び舎としての学校」「元気な学校」「明るい学校」「活力あふれる学校」
--------	---------------------------------------

重点目標	1 真の学力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びを可能にする学習指導の充実 2 心身ともに元気で豊かな生徒を育成する生徒支援の充実 3 「地域とともにある学校づくり」をめざしたコミュニティ・スクールの推進 4 教職員一人ひとりのよさや個性を活かした学校づくりの推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和5年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	[現状] ○学校評価アンケートにおける調査結果では、「積極的な授業参加」に対する生徒の肯定的な回答が9割を超えることができた。さらに、「分かる授業の実施」については保護者の肯定的回答が昨年度と比べ6Pt増の68%となり、授業に対する生徒の積極性や保護者の満足度を高めることができた。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに概ね良好な結果である。 [課題] ○家で自ら計画を立てて勉強することが苦手生徒の割合は以前低い。学校で学んだことを同家庭学習に生かすかが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・大砂土中アクティブ・ラーニングモデルの授業実践 ・STEAMS教育の推進	①全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。 ②スタディサプリなど端末を利用した教材を積極的に活用し、目標をもって学習できるようにする。	①生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ②学校評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて「授業に積極的に参加している」項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。	・生徒が自己採点の結果をもとに、自らの課題点について把握し、授業等に生かすことができた。 ・学校評価に係る生徒アンケートは91%、保護者アンケートにおいては85%の肯定的な回答であった。	B	・自己採点を行うことで、自身の課題を把握し、普段の授業や家庭学習等に取り込む工夫が必要で、タブレットの有効活用を促進する。 ・スタディサプリ等の端末の利用について、教科の特性を生かした活用をさらに工夫改善する。	・授業の雰囲気が非常の良く、生徒と教員の人間関係の構築が基盤となっている。 ・研究発表の成果が、様々な授業に生かされていることが分かった。特に、主体的に活動する生徒の姿がその答えとして表れている。	
2	[現状] ○生徒指導部・教育相談部を中心に、積極的な生徒支援に力を入れた。生徒主体による「学校生活のルール見直しプロジェクト」や「タブレットパソコンのルール見直しプロジェクト」に取り組んだ結果、「決まりやマナーを守る」の項目では生徒の肯定的な回答や保護者の肯定的な回答が高い評価を得た。 ○「安全で安心な学校生活」については96%の生徒と94%の保護者から肯定的な回答を得ている。「安全・安心への配慮」についても95%の生徒から肯定的な回答を得たことから、おおむね良好と考えている。 [課題] ○今後も「心と生活のアンケート」等で生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、迅速かつ適切に組織的に支援・相談して必要がある。	・生徒一人ひとりに対するきめ細やかな生徒支援・教育相談体制の確立 ・安全な生活の実現に向けた意識の向上	①生徒指導や教育相談に係る情報をデータ化し、蓄積した情報を生徒の状況に応じてきめ細やかに把握、分析し、迅速かつ適切に組織的に支援等を行う。 ②情報端末を活用して生徒アンケートや面談の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を把握する	①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 ②学校評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。	・教員アンケートの関連する項目において、肯定的な回答が92%であった。 ・生徒アンケートの回答は92%、保護者の回答は75%であった。	B	・生徒一人ひとりに対するきめ細やかな生徒支援・教育相談体制が年間通じて、迅速に着手し、丁寧かつ、温かい対応を組織的に行える環境を整備する。		・生徒指導よりも、生徒支援を充実させることが重要であることが理解できた。 ・いじめに関する学校での課題を細かに分析し、「防止」よりも「予防」に力を入れて取り組んでいることが分かった。 ・組織的に取り組み、教育相談の課題についても、スクールカウンセラーやさわやか相談員と連携し、一人ひとりのニーズに合わせた対応ができています。
3	[現状] ○昨年度、学校関係者評価委員会の場で、目指す生徒の姿について「防災」をテーマに熟議を重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 [課題] ○学校運営協議会及び地域との交流(開かれた学校)をコロナ禍においてもどのように実施、運営していくかである。 ○地域の方々、生徒に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた取組をする。	・積極的な学校公開 ・地域との協働による防災活動の充実	①本校HP内に、学校運営協議会に関するページを作成し、目指す生徒の姿を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②土曜日開催の授業や行事について、広く保護者や地域の方に公開する。	①学校評価に係る教員アンケートにおいて「全ては子どもの未来のために」を合言葉とした保護者・地域との連携強化に努めたかの肯定的な回答の割合を80%以上になったか。	・「安全で安心な学校生活」「安全・安心への配慮」の肯定的な回答について、97%であった。 ・生徒のケガの発生について、昨年度より減少することができた。	B	・安全な生活を行うために、生徒一人ひとりが課題意識をもつことができるように、委員会活動等と連携して整備する。 ・災害時、中学生が地域の力になることを意識した訓練を行う。		
4	[現状] ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、昨年度からエヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○多くの職員がFormsを活用したアンケートを実施したり、Mentimeterで生徒の意見を集約できたり教員のスキルが向上できた。 [課題] ○ICTの活用方法や活用技術に差が見られる。誰もが学び続けることができる環境づくりが求められる。	・情報端末機器に関する研修会の充実(大砂土CAFÉ DE GIGA)	①学期に1回以上、ICTの活用方法についての研修「CAFÉ DE GIGA」を実施し、教員のスキルアップを行う。 ②教員一人ひとりが校内研修の際に毎回、ポートフォリオを作成し、目標、振り返りに活用する。 ③週の授業のコマに研究推進委員会を設け、教員の資質向上及び研究発表に向けた取組を行う。	①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善に取り組み、目標を達成することができたか。 ③研究発表会における各発表(教科・領域・生徒支援)やパンフレットの作成等を行い、資質向上することができたか。	・ICTの活用に関する項目が、91%であった。 ・全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善に取り組み、目標を達成することができた。 ・研究発表会における各部で資質向上に役立てることができた。	B	・新型コロナウイルスの5類への移行を受け、地域や保護者への情報発信をHP等で行い、積極的に学校公開を行う。		・ICTを活用した授業の取組が、充実しており、主体的な生徒の活動につなげることができている。

